

唾液腺健康医学入門

Introduction to Salivary Gland and Health Medicine

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 唾液腺健康医学
- ③ 唾液組成
- ④ 唾液機能
- ⑤ 全身疾患との関連性

授業概要

健康な口腔組織を保つために、唾液の存在は不可欠である。唾液には、消化作用、歯面・口腔の清掃のための洗浄作用、殺菌・抗菌作用、緩衝作用、抗脱灰作用、体液量の調節作用などの様々な作用があることが知られている。また、唾液の複雑さについては、その多種多様な機能を理解することが必要である。本講義では、唾液腺および唾液検査に関する基本的な知識を習得することを目指す。具体的には、(1)唾液腺の解剖学、(2)唾液腺の組織学、(3)唾液検査の基本を学び、講義を行う。(4)唾液腺の研究動向について議論する。

授業科目の学修目標

唾液は99%以上が水であるが、残りの部分は局所あるいは全身に由来する多くの無機物や有機物で構成されていることが知られている。そこで本科目では大学院レベルに必要な唾液・唾液腺および唾液検査に関する知識を修得することを目指す。

授業計画

- ① 唾液・唾液腺研究のエビデンスレベルの検証 4コマ 槻木恵一
- ② シグナル伝達経路と唾液分泌のメカニズム 4コマ 槻木恵一
- ③ 唾液オミックスからの唾液成分 4コマ 槻木恵一
- ④ 「臨床研究における倫理指針」および「動物実験等の実施に関する倫理指針」4コマ 槻木恵一
- ⑤ 唾液・唾液腺学的研究論 14コマ 槻木恵一

教科書および参考書

唾液の科学 一世出版 監訳 石川達也・高江洲義矩

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

唾液・唾液腺学的研究論では授業項目と唾液・唾液腺学分野で発表された関連する論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 唾液・唾液腺学の意義を理解し、唾液検査学の基本を説明できる。
- ② シグナル伝達経路を介した唾液分泌のメカニズムを説明できる。
- ③ 唾液オミックス研究における唾液成分の現状を理解することが出来る。
- ④ 唾液・唾液腺学研究領域における倫理規範を理解し、応用することが出来る。
- ⑤ 唾液・唾液腺学的研究論を理解し、実践することが出来る。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
70%	30%	0%	0%	0%	0%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識理解度を判定する。1回70%
- ・小テストは、授業終了後に毎回行い、知識の理解度を判定する。30回×1%=30%

理想的な達成レベルの目安

唾液腺健康医学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。